



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／竹村 一幸
- 副会長／小野 仁 中畑 隆一
- 幹事／小口 泰史
- 会報・雑誌・広報委員長／坂井 忠彦

■ 例会 毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

■ 事務所 岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939 Fax/0266-23-6939

第 2303 回例会 2006 年（平成 18 年）8 月 8 日（火）

司 会：呉本公太
点 鐘：竹村一幸

斉 唱：手に手つないで
ラッキーNo.：No. 3 6 浜俊弘

会長挨拶

皆さん今日は、豪雨災害の復旧も幹線道路作業はほぼ終結しました。これからは行政では対応できない被災住宅の泥の撤去や清掃などで災害救援ボランティアが県内外から連日 500 人近い人達が奉仕に汗を流して頂いております。市のボランティア支援センターからの要請によりますと、ボランティアの方々が炎天下のなかで冷水が大変不足しているとの事、岡谷エコーRCの会長さんより話が入り、両クラブでペットボトルの冷水を日曜日から水曜日にかけて 2000 本を提供する事を決めました。先の例会で二次支援も考慮に入れておかねばと話をしたばかりですが今回も緊急で事後報告になりましたが、事情を察しご理解を賜りたいと思います。

当初の計画ではナイトクルージングでハワイアンと湖上花火でご家族の皆様と交流を楽しむ今宵であったのですが、現況の事情により自粛し中止とさせて頂きました。親睦委員会さんにはこれに代わるべき家族交流会を企画していただくことになっております。平穏な日々が戻ることを願うばかりです。

会長報告

- ・ あずみのRC様より御見舞いのメッセージを頂きました。
- ・ 8月5日(土)に新潟県上越市の新井RCの佐藤会長、牧野幹事、早津社会奉仕委員長さんが、災害の御見舞いに来岡されました。水害見舞金と支援物資として米、塩等を頂きました。見舞金は市の災害本部に昨日お届けしました。米と塩は本日岡谷市社会福祉協会にお持ちする予定です。
- ・ 事後報告となりますが、ボランティア支援本部の要請を受けて岡谷エコーRCと合同で2000本の冷水ペットボトルをマリオ様のご協力を頂き、湊地区でボランティア活動をされている皆様方の元まで届けました。運搬に協力頂いた山崎会員、太田会員、山岸会員、小口幹事有難うございました。

幹事報告

- ・ 次週 8/15(火)は指定休日として例会はありません。また、8/21(月)の岡谷エコーRCとの親睦ゴルフコンペは中止となりました。合同夜間例会はご案内の通りに行ないます。8/22(火)の例会は合同夜間例会に振替となります。
- ・ 本日、例会終了後に理事会を開催致します。

委員会報告

社会奉仕委員会 先週よりお願いしております。薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の募金にご協力頂きありがとうございました。また、9/10(日)クリーンレイク諏訪で開催されます“よみがえれ諏訪湖ふれあいまつり”の案内が届いておりますのでご報告します。



卓話 「水環境保全」 北村正春 会員

岡谷市における水源かん養と社会教育

現在岡谷市は生活環境改善のため下水道工事が行なわれ、これが完成すると諏訪湖の水質は良くなると喧伝されていますが、一方では河川を流れる表面水が枯渇し降雨の時にだけ流れる川が出来る事による水害の発生や水質汚染、特に工業によって立つ諏訪地域では地下水面の低下により地下水が汚染される事は現実として考えられます。従って将来、地下水で無い処の上水道に頼らなければならない岡谷市での使用量の増加により、安全な水質及び水量が確保できる新たな水源が必要になります。

今、岡谷市だけを捉えたとき水源地としての植生が確保されているのは、横川山、西山地区、天竜川北岸だけであります。併しこのうち、西山地区は水系が多く、ゴルフ場も2箇所造られており、安全な水源は限られてくるでしょう。又、開発計画も有り、リニア新幹線の問題も絡み、開発が行なわれることになれば安全な水源とはなりえないと思われます。

天竜川北岸は、小規模な水源開発の可能性はあると考えますが、岡谷側の山は浅いので水量確保には限度があることも考えられます。しかし、各地域の小さな沢筋の水源地は、集水井戸を残すなどして水不足や水害に備え手入れしていく必要があります。現在、湖北地区の上水道源として、下諏訪ダム計画がなされていますが、他町の犠牲による水源地確保を図ることより、まず、自前の水源地を長い将来を見て考え、確保すべきであると考えます。それには地域エゴを捨て去り、温泉を含めた下諏訪町との水道統合を図ることはもちろんであります。市民一人一人が出来うる子孫の事をも考えた、安全な水源地の確保を考えるときが来ていると考えます。

1. 横川山

水源地涵養地域として横川山を捉えたとき、戦前戦後の荒廃期から横川山組合の努力で戦後、禿山に落葉松を植林することにより、開発の手を入れず植生の回復に力を注いで来ています。この努力により災害が無くなり、小井川水源地やその他の地下水の水源地として、市民の飲料水の供給の一翼を担い安定した水源地となってきた。上に、小井川水源地集水場の緩速濾過（現在は急速濾過方式と成っている。）による水道水は美味しい水を市民に提供しています。しかし、戦中の山林荒廃による災害の恐怖は、我々市民の知るところでもあり、その後の植林は、治山が治水につながり、又飲料水源地の涵養にも成る事を教えています。処が、用材としての木材市場の変化は、林業に対する意欲を失わせている現在、何らかの対応をしなければ、植林意欲はなくなり、豊かな水源地になるべき山を失うこととなります。横川山は、落葉広葉樹林帯に属するので、ブナ、ミズナラ、トチ、楓等の発育に適しています、こ

これは水源かん養を考えたときに、裸地よりは落葉松や杉・桧、それよりはブナ等がよりかん養能力があり、これらの植生を複数尾根から谷間まで分布させることにより、緑を育て動物を育て、微生物や小動物等による生態系を形成させ、降雨、光合成等全ての自然生態系を作り出し、水源かん養を図る必要があります。横川山組合の努力に報いるためにも、横川山組合の理解と協力を得て、岡谷市民の大切な財産である横川山を再び再生し、子孫の自然休養林として又、水源として、すべての開発に対する欲望を防ぎ、創り、伝えなくてはなりません。

2. 水源を守り伝え育てる環境教育

環境資源としての森林は、気象条件を緩和し、水源をかん養し、自然災害を防止し、災害時の避難地となり、大気を浄化し、鳥獣を保護し、保健休養地となり、教育教養情操培養の場となります。これらの事を考えたとき、かつまた森を滅ぼした文明は必ず滅んでいく人類の文明の愚かさを考えたとき、今、行なわなくてはいけないことは、開発地と、自然生態系の培養地とにきちんと一線を引き、岡谷市民が、地域住民が、豊かで、快適で、楽しい生活が行なわれるよう我々人間が壊した生態系を新たに創り直す事であると考えます。これらを考えた時、前段階で綿密な調査を行い其れに基づいての市民参加と学校教育を行う事が必要だと考えます。

イ) 必要調査事項

- 1) 現在の水道使用量収支及び将来の収支
- 2) 市内全ての水源地別供給能力
- 3) 横川山水系の広さ及び植生、動物
- 4) 横川山水系の植生別水源かん養量
- 5) 横川山組合の歴史及び諸権利
- 6) 行政による公園植林等の補助金の種類
- 7) 植林樹木の適性
- 8) 林業経験者の確保状況

ロ) 社会教育及び学校教育における自然及び林業体験教育の必要性

- 1) 自然の中でのキャンプによる情操教育
- 2) 動植物との出会い、集団学習とリーダーの養成
- 3) 林業従事者の指導による体験教育
- 4) 植林、下草刈り、枝打ち、間伐、炭焼き

3. 岡谷青年会議所としての考え方

未来に向けて、町創り、人創りに取り組むのが青年会議所のあるべき姿であるならば、人が生活し、人間としての情操や掟を学ぶことの出来る最も適した場所は森林であり、休みなく安全な飲料水を供給してくれるのも森林であります。水のない都市は成り立たない、という事に目が行くのは当然のことであると考えます。この森林を、岡谷市の場合は、時たま横川山として、横川山組合が守り育ててきました。この面積は、岡谷市の3分の1以上に達し、尚かつ戦中の荒廃はあるものの、見方によれば、開発の手が入っていない、大変な財産であります。今こそ、この開発ブームの中でこそ全市的な取り組みで、楽しさのある運動を展開し、市民の森として、子孫に、未来に備えることが必要な時と考えます。具体的には、まず第一歩として、専門委員会を創り、横川山を、市民の森とするための必要事項を調査し、考案し、理想とする森林の植生分布図を創り、将来の水需給を予測し、その他の関連事業を

提案し、明日に目が行きがちな市民に訴え、あらゆる補助金等を調査し、為政者及び行政の説得を行ない、横川山の権利者に対して理解を求める必要があります。

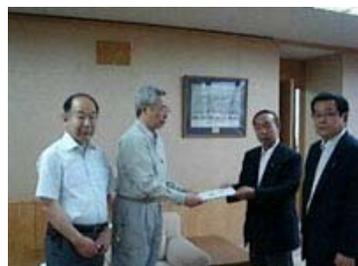
2006年現在当ロータリークラブに、1988年岡谷青年会議所2001年委員会の会員が3人おります。永田修平君、小口俊光君そして北村正春の3人です。くしくも、岡谷ロータリークラブで、永田修平君が水問題を提起する事に成りましたが、夜遅くまで意見を戦わした事を昨日のように思い出します。此の提案は青年会議所の組織の持つ制度故か生かされる事は有りませんでした。その後の岡谷市の水道問題の経過を振り返ると、興味深い思いがします。先日の降雨による災害も、大規模開発が上流部に無く、しかも沢筋に山井戸が健在で湧水を集めていたならば回避出来たかも知れません。便利さは少しの手間を省いて成立ちます。そろそろ考えを替え、市民も行政も、議員も、自分達の郷土は自ら手を出して守るものだと自覚し行動する事を知り、少しの手間を出し合う事が必要なのではないのでしょうか。

ニコニコボックス

大橋正明・林靖高・山岸邦太郎・山岡正邦・塚田昌滋・佐藤有司・宮澤由己・竹村一幸・小口泰史・藤森睦美・山岡晴男・高木昭好・牛山幸一・小口雅弘・矢島實・山崎典夫・浜俊弘・呉本公太・小野仁・此田滋・畑博明 新知事に期待しています。
吉江信介・井上保子 暑くなりました。台風がちょっと心配です。
小松洋司 8月1日、創立記念日を迎えました。
永田修平

会員数50名、出席者39名、出席率78.00%、前々回訂正90.00%

「平成18年7月豪雨災害」災害支援



義援金をお渡しする



支援物資の搬入



2006-2007年度 RI テーマ
率先しよう
LEAD THE WAY

